

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

9  
No.751

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる 明日へつながる<sup>⑭</sup>

## 認め合い、ともにつながる社会に向けて

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

ニートや引きこもりの若者を社会参加につなげる  
～「コ・ワークひめじ」が取り組む中間的就労支援～

P8 まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりレポート

「コウノトリ悠然と舞うふるさと」豊岡とともに  
地元根差した建設会社 株式会社川嶋建設

P9 地域を駆ける! ワーカー物語

「一人の人に寄り添う」つながりづくりから、  
「市内みんなが支えあえる」しくみづくりへ  
篠山市保健福祉部地域福祉課高齢支援係 松本 ゆかりさん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション



9月15～21日は  
「老人週間」だよ!

播磨町





# 「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる<sup>⑭</sup> 認め合い、ともにつながる 社会に向けて

本会では「ストップ・ザ・無縁社会」全国キャンペーンの一環として、7月29日に神戸芸術センターにおいて第52回社会福祉夏季大学を開催した。  
今回の全体テーマは「認め合い、ともにつながる社会に向けて」。基調講演では、これからの地域づくりに向けた視点が分かりやすく語られ、パネルディスカッションでは、第一線の新聞記者により、現代社会の実態についての報告が行われた。今回の特集では、これらの講演の概要をお伝えする。



た命のお世話を、国や企業が代行するシステムに完全に移行させました。これにより、日本は世界一の長寿国になりましたが、その裏面で日本人はサービスに頼るようになってしまいました。福沢諭吉はかつて、国民はサービスを国から受ける客になりつつあるが、サービスが破綻したり劣化したときには、それを取り返して自分たちが主となる力がないと市民とはいえない、と述べています。110年近く前のこの言葉が、今ほど私たちに強く突き刺さってくる時代はないと思います。

**しんがりの思想**  
私たちは、料理一つにしても、完全に自力ではできません。お金で買えるサービスは、他の人が体を張ってくれているからこそ成り立ちます。つまり、「自立」とは、「独立」(インディペンデンス)とは異なり、「相互依存」(インターディペンデンス)のことなのです。この相互依存のネットワークを使う用意ができていないことが、本当の自立だと思つのです。  
これまで、一番濃い相互依存のネットワークは家族(血縁)でした。そして会社員は社縁というものにすることもできました。しかし、これらの縁が弱体化する中で、私はこれから模索すべき4番目の縁を「無縁の縁」と呼びたいと思います。歴史学者の網野善彦は、中世にこの世の縁から外された人たちが、芸能や宗教というかたちで新しい社会的連帯を紡ぎ出していったことを指摘しています。お寺という場所も、離婚して実家に帰れなくなった女性などが、身分も明かさずに受け入れてもらえた無縁の縁の場所でした。悲田院などのように病

院や心のケアも行っていた寺もあります。つまり、無縁を唯一の縁として人々が集う場所から、さまざまな文化や福祉の力が生まれてきたのです。その意味で、ボランティアやNPOなど、出入りが自由な緩い連携の中で、大事なことを皆で一緒にやるという支え合いのネットワークが、これからの新たなコミュニティの力として模索されるべきだと思います。  
これからの人口減少社会という一種の退却戦で一番大事なのは、脱落者がいないか、誰かに犠牲が集中していないかと全体を見る「しんがり」です。地域社会のリーダーには、本業が別にありますから、適当なところで交代しないといけない。ラグビーのように後ろヘボールをパスしていきながら、全体として少しずつ前に進んでいくというイメージです。民族学者の梅棹忠夫は、「請われれば一差し舞える人物になれ」という言葉を残していますが、頼まれたら交代できるような心がけておく、このようなフロワーシップを持っている人が増えれば、コミュニティの力は強くなると思います。

**町永** 私たちの社会では、男も女も必ず結婚し、子どもを2、3人つくる男は定年まで会社で過ごし、女性は家において子育てと家事を担う、という前提をもとにして福祉が組み立てられていたのですが、すでにこの前提は壊れています。これまでの家族観を組み直して、新たな社会のありようを考えなければなりません。  
「無縁社会を考える」とは東日本大震災からの復興を考えるということでもあります。元の社会に戻す復旧ではなくて、新たな暮らしを保障することができるといふ被災地の問題が、私たちにも問われているのです。それでは、新聞記者の皆さんの報告を聞きたいと思つます。



司会：町永 俊雄さん  
元NHKアナウンサー  
福祉ネットワークキャスター

**パネルディスカッション  
「報道機関が捉えた  
無縁社会」**

**命のお世話を金で買う社会**  
今、町からコミュニティが本来持たねばならない活動が消えてしまっています。料理や排せつ、葬式、防犯、防災、子育てなど、これまで地域社会で協力して処理してきた、私たちが生きるために共同で行うべき命のお世話を、今ではほぼ100%お金で買うようになっていきます。  
「無縁社会」という現象を、民俗学者の柳田國男は昭和の初めに別の言葉で憂っていました。明治までは、どこかの家族が飢餓状態になったときにはみんなで協力して助けるといふ「共同防貧」の仕組みがありました。それが昭和になって衰弱し、一人一人が孤立して貧困に向き合わざるを得なくなった当時の社会に対して、「孤立貧」という言葉で警告を發したのです。現代では、当時よりもはるかに厳しいかたちで、個人がさまざまなリスクにむき出しにさらされる時代になってきています。  
しかし、コミュニティの再生は容易ではありません。1970年代に都市の労働力を製造業に回していくという政策の中で、製造拠点を東北などの地方に移していく動きがありました。しかし、1980年代にバブルがはじけてからは製造業のパワーが落ち、不要な工業用地を商業用地に転換して大型販売店が進出します。そこで地元の小売業や商店街が一挙に疲弊して、シャッター街ができていったのです。さらに、農業や漁業、伝統産業が工場労働に移っていたために、工場がより安価な労働力を求めて海外に移転してしまっても、簡単には産業が再建できません。日本の近代は地域の力をどんどん削いできてしまったのです。  
また、明治政府は、日本が西洋列強と競争できるよう国力の増強を図ったのですが、ここで先ほど述べ



鷺田 清一さん  
哲学者・大谷大学教授  
せんだいメディアテーク館長  
前大阪大学総長

**基調講演  
「認め合い、ともに  
つながる社会に向けて」**







広瀬 和勇さん  
読売新聞大阪本社  
社会部主任

今、デイサービスセンターで宿泊サービスを行うところが増えています。大阪府では昨年10月時点で167カ所と、約1年間で40カ所余り増え、1カ所毎晩5、6人の高齢者が宿泊しています。

原因の一つには、短期入所生活介護(ショートステイ)や特別養護老人ホームがほとんど満床で、高齢者の受入態勢がないという状況があります。また、家族の少人数化などで、家庭で介護をする余力もなくなっています。ある施設の方も、家族が「もつ任せた」と預けっ放しになっていると嘆いてました。そこでは受け入れを頼まれることが一番多いのが正月でありお盆なのだそうです。

自分の家で暮らしたいけれども、家族が大変だからと「帰りたい」の言葉が言えない高齢者も少なくありません。非常に難しい現実がそこにはありました。

3年前に、大阪市で母親が2人の幼児を餓死させた事件には要因がありました。一つは生い立ちです。彼女は幼い時に両親が別居して母親に引き取られたのですが、夜間に子どもを置き去りにして遊びに行くなど、彼女と同じことをしていたのです。

もう一つは、シングルマザーへの社会の無関心です。彼女は二人目の子の出産後に浮気や借金が発覚して夫と離婚するのですが、養育費の話し合いもなく子を押しつけられてしまいました。幼児を抱えて水商売で働く彼女は、元夫や父親にSOSを出しますが断られます。児童相談所でも共感されただけで、「誰も助けてくれない」と感じたそうです。彼女には、最後まで相談する力がありませんでした。そして周囲も、一歩を踏み込むことができませんでした。



反橋 希美さん  
毎日新聞大阪本社  
学芸部記者

ですが、手続きをしませんでした。相談に来たときにいかにつなぎとめるかという行政職員のノウハウが必要ですよ。

また、今は子どもの泣き声で通報されると追いつめられる母親が結構います。すぐ通報するのではなく、「泣いてたけど何かあったの」と声かけができるような関係性を目指していくことが大事だと思います。

紺野 今から濃密な近所づき合いを取り戻すのは、現実味は薄いように思うので、民間でネットワークを作るのが理想だと思います。そこに公が入ることで、住民の方も安心して参加できるようになるでしょう。

但馬地方のある集落では、高齢者の孤独死をきっかけに、毎朝軒先に黄色い旗を出して夕方に取り込むことで、住民の安否を確認していました。地域の実情に応じた取り組みが考えられればと思います。

清川 現在の財政状況では公の役割に限界があることは明らかです。例えば、地域の高齢者を見守る取り組みとして、郵便局や電気・ガス事業者、新聞販売店などのネット



紺野 大樹さん  
神戸新聞社会部記者

「老いの現実」という連載で、介護保険制度の契約などにあたり保証人となる身内がない場合の身元保証を行う業者を取材しました。多くの高齢者が参加していたこの業者の説明会では、「皆さんの家族になります」と強調されていました。入会金や身元保証料などを組みわせると高額になるのですが、会員になった方は「とてもありがたい」と話されていました。

唯一の身内の兄を亡くされたある男性は、入院時の保証人を兄に頼むことができなくなったことから会員になりました。ほかに、緊急入院時に駆けつけたり、葬儀を執り行ったりというサービスもあります。

この連載は反響を呼び、中には「業者を教えてください」という問い合わせもありました。それだけ差し迫った問題だと実感しました。

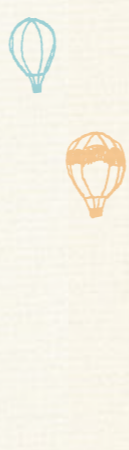
ワークをつくる動きがありますが、このようなことのコーディネートは行政の大きな役割ではないかと思えます。

また、これまでの高齢者の概念を少し変えて、例えば70代前半までは支え手である、と意識を転換していく必要もあります。国の社会保障制度改革国民会議では、社会保障の未来を考える上で重要なはずの家族の変容や無縁社会についての議論が目立ちません。財政的な問題だけで議論が進むのではと危惧します。

試されているのは想像力

町永 誰もが社会の息苦しさを感ぜながら、このままではいけないと考えています。東日本大震災の被災地でも、高台にコンクリートの安全な施設を作るのではなく、平地にみんなと一緒に暮らして、再度津波が来ても声をかけて助け合えるような、人のつながりを基盤にした社会を取り戻そう、と話し合われています。

被災地で最初に復旧を目指したのは電気、ガス、水道などのライフラインですが、ライフは「命」だけで



これまで、育児や介護、葬儀などでは、家族が無償の支援員のような役割を担ってききましたが、家族が身近にいない人が増えていきます。「孤族の国」と題した連載で身元保証や生活支援を一括して行うNPOを取材した時に印象的だったのは延命治療の場面です。治療や手術に関する自己判断が難しいときに、その会に委ねるか委ねないかを契約書で最初に書くのですが、最初のとときには医師がそのNPOの職員に相談するという現実がすでに起こっているのです。

この連載に対しては、低所得者など費用を払えない方の問題や悪質業者の問題など、多くの疑問の声が寄せられました。しかし、こうした企業やNPOの私的な部分を力をどう生かして私たちの生活を支えていくかは、これからの大きな課題だと思います。



清川 卓史さん  
朝日新聞東京本社  
文化くらし報道部長

はありません、「暮らし」です。さらに「人生」でもあります。地域の中に命と暮らしと人生を取り戻し、血の通ったライフラインをつくることのできるかどうか、それが今日の問いかけではないかと思えます。

東日本大震災で私たちは、見も知らぬ人たちの困難を身にしみて感じました。同様に、居場所のない高齢者や虐待した母親などを自分たちに重ねながらこの社会を歩むことができるかどうか。「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンでは、私たちの想像力が試されています。

無縁社会にどう向き合おうか

町永 この無縁社会では、高齢者や子育て中の母親など、一番脆弱な部分にしわ寄せがいくのです。では一体、どうすればいいのでしょうか。

広瀬 取材の中で、セーフティネットが破れても誰かが下で支えられるような「重層化社会」という言葉を聞きました。例えば介護でストレスを抱えている家族が集まって、介護の大変さを笑いながら泣きながら話し合うNPOがあります。そのような介護をしている人を支えるという重層化もあっていいと思います。

また、以前に「隣人祭り」というものを取材しましたが、マンションの中で口もきかなかった住民同士がパーティーをしてみたら、次の日からみんな挨拶するようになり、以前は自転車が乱雑に置かれていた駐輪場もきれいになったそうです。顔が見える関係をそれぞれの場でつくることがきっかけになる気がします。

反橋 大阪の事件の母親は、大阪に行く前の市で転入届を出し、児童扶養手当の説明も受けていたので

参加者からも  
多くの感想が寄せられました!

- 「しんがりの思想」が大いに参考になった。がむしゃらに走り続けてきたコミュニティ活動を一度見直したい。
  - 終末期さえもお金で解決するビジネスとなることに、何ともやるせない気がした。
  - 「無縁社会」になりつつある現状を改めて認識した。一人一人の意識を高めていくことが必要だと思う。
- ※各紙の記事等が掲載された当日資料を1,000円で頒布しています。ご希望の方は本会総務企画部(☎078-242-4633)まで。



生きがいをミッションに掲げ、NPOの活動支援を行っている特定非営利活動法人コムサロン21が、「コ・ワークひめじ」を運営し、ニートや引きこもりの状態にある若者に対する支援を行っているよ。どのような取り組みが行われているのか紹介するね。



## みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

### 出口の見えない若者への支援

コムサロン21では以前より、「ひめじ若者サポートステーション」を厚労省より受託し、「働く自信がない、何をしたいのか分からない」といった悩みを抱える若者に対し、カウンセリングやセミナーを通じて自立支援を行ってきた。そのうち3分の1の若者は就職や進学へと進路を決めていくが、なお多くの若者は出口の見当たらない状態にあった。そんな彼らが具体的に社会参加できるように、コ・ワークひめじは立ち上げられた。

### 社会性と自信を取り戻す

登録した若者は、まずは自らのペースで「コ・ワークひめじへ通うこと」からスタートする。「朝起きて家を出る」という生活リズムをつくり、マナー講座・履歴書添削といった種々のプログラムに取り組む。さらに、企業から受注した商品の袋詰めや清掃、農作業などの仕事も経験する。

当初、彼らは同じ空間の中で過

## ニートや引きこもりの若者を社会参加につなげる

～「コ・ワークひめじ」が取り組む中間的就労支援～



社会参加を目指して共同作業に取り組む

すことを苦痛に感じるが、お互いを助け合うという経験などを通して、徐々に人間関係が作られていく。安心して通える場を提供することで社会性を取り戻していくのだ。

また、「どうせ自分にはできない」と否定的な思いを持つ方も多いが、「不安な要素について一つずつ対処方法を考え、シミュレーションなど丁寧な事前準備を行い、『自分ができる』というイメージを持ってもらうことが大切」とコーディネーターの谷口さんは話す。就労体験で実際に賃金を手にし、仕事ができたと自信を得た彼らは、その後社会へと歩みだしていくことになる。

### ネットワークづくりの必要性

事業所を開所した平成24年度は

### 取材を終えて

生活困窮者に対する支援策の一環として直ちに一般就労を目指すことが困難な人に対して、社会的な自立に向けたサポートを行う「中間的就労」の必要性が謳われています。コ・ワークひめじでは若者をターゲットにした取り組みでしたが、これらのノウハウが多くの人を支援する仕組み作りに活かされるよう期待したいと思います。

若年無業者試行的就労支援センター「コ・ワークひめじ」  
姫路市二階町79 レウルー姫路二階町3階  
☎079-282-6116  
<http://www.cowork-himeji.jp/>

## 「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ！全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

## メッセージ

### 繁栄とともにある本当の幸福とは

20世紀に続いてきた産業社会の中で、技術革新の進展などにより、日本の社会は著しい繁栄を遂げてきました。その繁栄の中で、私たちの生活も豊かになりましたが、一方で、産業構造の変化とともに、都市化、核家族化が進み、さまざまな価値観やライフスタイルが現れ、血縁、地縁に基づく家族や地域社会における人と人のつながりが希薄化してきました。

繁栄が本当の意味での幸福といえるのかどうか、今一度立ち止まって考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

「孤立化」が引き金となって、孤独死、虐待、引きこもりなど、さまざまな生活問題がおこってきている中で、今こそ、助け合いや支え合いという絆を家族や地域社会の中に再生していくことが求められています。

平成25年1月に、本会では、「第6回全国校区・小地

域福祉活動サミットinKOBE・ひょうご」を開催し、地元兵庫をはじめ、全国各地から多くの小地域福祉活動の実践者である住民や協働する専門職の皆さまにご参加いただき、活発な意見交換・交流を行い、共生社会や社会的包摂に向けた地域社会における絆の創造や再構築の重要性とともに、そのことへの関心の高まりを確認することができました。

今こそ、「無縁社会」と呼ばれる社会状況を私たち一人一人が見つめ、お互いにつながり、支え合える社会を住民の方々と創っていくことを考えていきましょう。その先には、きっと豊かで幸福な社会があるのではないのでしょうか。



神戸市社会福祉協議会  
理事長 今井 鎮雄

## TOPICS

### 「愛の輪講演会」が開催されました！

7月号でキャンペーンの協賛事業としてご紹介いたしました、「愛の輪講演会」（主催：ふれあいのまちKOBE・愛の輪運動推進委員会）が、7月23日に神戸文化ホールで開催されました。開催テーマは「橋 幸夫が語る介護・家族・人生観」。橋幸夫先生の心がこもったお話に、約1,700人の聴衆からは「感動・感激を大切にします」「橋先生の人生観に基づいたお話を聞きできて良かった」など数多くの声が寄せられました。

また、東日本大震災で被災された参加者からも、「素晴らしい講演会に参加できたことに感謝いたします。宮城県で東日本大震災に遭いましたが、今日のお話に感動しました。主人とこれから生かされた命を大切にしていきたいです」との感想がありました。

このように参加者に感動と感激、励ましを与える講演会として、成功のうちに開催することができました。

### 推進団体の参画と協賛金について（お礼）

このたび、新たに下記の団体より参画の申し出をいただきました。これにより、推進団体は201団体となりました。（8月7日現在）

新たに参画した団体 兵庫県司法書士会

なお、同会からは協賛金（金5万円）もいただいております。ここにあらためてお礼を申し上げます。

### 「無縁社会」に対するメッセージ

特集で取り上げた第52回社会福祉夏季大学では、参加者の皆様から「無縁社会」についてのメッセージを多数お寄せいただきました。その一部をご紹介します！

- 「無縁社会」を乗り越えるため、世代を超えて交流する機会を地域で増やしていければ良いと思う。（施設役職員）
- 「向こう三軒両隣」がコミュニティの基本ではないでしょうか。（民生委員・児童委員）



# 「コウノトリ悠然と舞うふるさと」豊岡とともに

## 地元根差した建設会社 — 株式会社川嶋建設 —

### 11月はボランティア月間

株式会社川嶋建設では、創立記念日のある11月を「ボランティア月間」として環境美化活動を行っている。「地域のために何か恩返しをしたい」という思いから、平成13年に全社員をあげてゴミ拾いを始めたのがきっかけです」と、経営推進室室長佐々木さんは語る。



「ゴミ拾いから始まり、現在では、コウノトリのえさ場であるハチゴロウの戸島湿地や「コウノトリの郷公園」の整備、草刈り作業もしている。えさとなるドジョウやバッタ、ヘビなどの生物が住みやすい湿地をつくるため、建設業という本業を生かし、重機を用いての作業や細かい手作業にも対応し、自然環境の保全に取り組んでいる。これらのことが評価

され、「平成24年度ひょうご県民ボランティア活動賞」を受賞した。「豊岡市はコウノトリも住めるまちとしてさまざまなことに取り組んでいます。春になるとコウノトリの卵がふ化したという話題が新聞に載るのですが、それが特別なことではなく当たり前になってほしいですね」

### 1 豊岡市とともに歩む

同社では、地元根差した企業として、小さな世界都市をめざす豊岡市とともに歩んでいきたいと考えている。その一環として目指しているのが環境社会検定(通称「eco検定」)の全社員取得だ。基礎的な知識を得ることで、社員の意識も変わってきたという。

また、「古民家蘇生」にも力を入れている。「再生」と呼ぶのが一般的だが、単に外見をきれいに見せて終わりではなく、新しいライフスタイルに適應する現代住宅にのみがえらせようとする思いから、同社では「蘇生」の言葉を使っている。



湿地内に生い茂る草の除去作業

目指していますので、今後も豊岡市と同じ方向を向いて活動していきたいです。さらに「プラスアルファの新しい取り組みも考えています」と佐々木さんは今後の抱負を語ってくれた。

株式会社川嶋建設  
所在地 兵庫県豊岡市寿町1-1-35  
TEL 0796-12214321  
URL <http://www.kawashima.gr.jp/index.html>

## 地域を駆ける! ワーカー物語

# 「二人の人に寄り添う」つながりづくりから、市内みんなが支えあえるしくみづくりへ

あなたの原点は?

「患者一人一人に寄り添う看護師になる」と思い、病院で働き始めました。その中で、「この方は、退院したらどんな生活を送られるのだろう」という疑問から、在宅生活を支援したいと思うようになり、在宅の方への関わりがもてる町の診療所に勤務しました。

印象に残るエピソードは?

診療所での訪問看護、在宅介護支援センターを経て、介護支援専門員として個別支援に明け暮れていたところ、地域包括支援センター(以下、「センター」)の設立に携わることになりました。当時の私に、上司が言ってくれたことを今でも覚えています。「ケアマネは30人ほどしか支援できないが、センターだと市内の高齢者1万2,000人を支援できる」

また、当時から介護支援専門員同士の座談会を開催していたので、センターでは、多くの機関や部署との「連携づくり」を支援できることに魅力を感じました。

今では、専門職の多職種で「この指とまれー」という交流会を年三回開催し、そこで培われた顔の見える関係が日々の実践にも生かされています。

力を入れたい活動は?

センターは現在、社協で運営され、市では基幹型機能を担って「医療」「福祉」「地域」の連携を進めています。日頃の地域での見守りには自治会長や民生委員、福祉委員や愛育班の方々のみならず、コープ、新聞配達などの生活に密着した事業者の方々の関わりも不可欠です。そこで、今春より市内

市民向けフォーラムで権利擁護の啓発劇を実施



80店舗が協力する「ささやまママに見守り隊」を結成し、さりげない見守りの中で異変を発見したら、市のふくし総合相談窓口と連絡する「気づき」と「つながり」のしくみができました。

地域の支え合いが私たち一人一人の権利を守ることにつながるといふ確信のもと、地域にあるさまざまな点をつなぎ、網目を細かくしていくようなくみづくりを続けていきます。

大切にしていることは?

市民も専門職も決して一人ではない、「い」言える篠山市にしたいと思っています。お互いを認め合えば、何かが変わり、おのずと支え合える関係ができるはず。市役所は、そのしくみづくりが役割だと思っています。平成23年に開設した「ふくし総合相談窓口」は、縦割りと思われがちな行政を横つなぎ

篠山市保健福祉部地域福祉課高齢支援係

まつもと 松本 ゆかりさん

### Personal History

- 20歳 旧篠山町内の総合病院に看護師として勤務
- 27歳 町立診療所勤務(町職員となる)
- 33歳 篠山市誕生・中央在宅介護支援センターに異動
- 40歳 地域包括支援センターに異動
- 45歳 地域包括支援センターの民間移管に伴い、市高齢支援係で基幹的機能を担当



にし、市民にとって「福祉のことなら、まずここ」と相談しやすい窓口になるよう啓発しているところです。

### 取材を終えて

個別援助の専門職の経験を生かし、市職員ならではの取り組みにまい進される松本さん。「仕事が楽しくて仕方ない」「市役所も現場です」とおっしゃるその笑顔には、市民の笑顔あふれる社会づくりの夢を現実にしようという強い信念が感じられました。

このコーナーでは、県内の社協職員など「地域福祉を進める人々」の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。



地域の生活支援と社協活動を考える  
〜県内社協会長会議・事務局長会議を開催〜

「地域の生活支援と社協活動」をテーマとして、7月29・30日に県内社協会長会議（トップマネジメントセミナー）を、7月26日に第2回県内社協事務局長会議をそれぞれ開催した。県内の社協では、社会的な孤立の解消を目指し、昨年度より「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを呼びかけているが、この動きを内実化させる上での社協の役割と今後の対応を考える場として同会議を開催した。



「社協の役割は地域にある資源を生かすこと」と語る市川氏（会長会議）

社協の役割と存在意義  
（会長会議の内容から）

- 一人ひとりのニーズを受け止め、その仕組みをつくること
- 共助のテーブルづくりと協働・ネットワーク型の問題解決
- 地域資源をつないで生かすこと
- 生活の中に自立を埋め込むこと
- 活動者のバックアップ体制づくり



平野氏は「まずは社協の相談支援力をアセスメントすることが必要」と指摘（局長会議）

社協活動と生活困窮者支援  
（局長会議の内容から）

- 生活困窮者支援は官民協働で—まずは実態把握から—
- 社協は「予防」の側面で役割を發揮するべし
- 地域生活支援には、住民参加という地域福祉の側面に加え、「家族福祉」が大切
- 子どもの問題から世帯の問題が見える
- 全職員の相談・ニーズ発見力を高める組織としての体制づくり

県教育委員会と福祉事業者との懇談会を開催！

7月23日、兵庫県福祉センターにて、県教育委員会と福祉事業者との懇談会が開催された。

この懇談会は、兵庫県社協社会福祉政策委員会が、福祉現場での人材確保への対応等について提言を行ったことを受けて実現したもの。

今年2月に初めての懇談会が開催され、教育・福祉双方の現場の実情や課題、協働に向けた方策等について活発な意見交換が行われた。第2回目となった今回は、福祉科を持つ高校の現場報告があったほか、高校新任教員が対象の研修会への福祉事業者の講師派遣や、懇談会の常設化としての連絡会議の設置が確認されるなど、少しずつ成果が生まれつつある。

福祉人材確保に向けて、長期的な視野に立った取り組みとして、福祉事業者と教育現場関係者の連携のもと、子どもたちやその親、教員に対して、教育を通じて福祉への理解促進を図ることを目指す画期的な取り組みでもある。今後の取り組みに注目したい。

「全世代型」の社会保障を提起

8月6日、政府の社会保障制度改革国民会議（会長・清家篤慶・義塾長）の報告書が公表された。

報告書では、給付は高齢世代中心、負担は現役世代中心という制度の構造を見直し、切れ目なく全世代を給付対象とする社会保障へ転換し、負担のあり方を「年齢別」から「能力別」に切り替えるなどの基本的な考え方が提起された。また、地域包括ケアシステムの構築を、地域の生活支援機能を高める意味で「21世紀型のコミュニティの再生」と定義した。さらに、少子化対策・医療・介護・年金の4分野に関する改革の方向性についても示された（図表参照）。

今後、この報告書に基づき、改革の実施時期などを盛り込んだプログラム法案が今秋の臨時国会に提出される。同国会では、6月に廃案となった「生活保護法改正法案」「生活困窮者自立支援法案」も再提出される見込みだ。

持続可能な制度を目指したこれらの改革の方向性が、これからの私たちの地域生活に及ぼす影響は小さくない。本会では、今回の報告書の内容や改革の推移を踏まえながら、政策提言活動や来年度の事業方針づくりにつなげていく。

※本会議の報告書・議事録は、首相官邸のホームページ（主な本国会議体）「その他の会議」から閲覧できます。

URL <http://www.kantei.go.jp/>

社会保障制度改革  
国民会議報告書の概要

- 第1部 社会保障制度改革の全体像
- 「21世紀日本モデル」への制度の再構築
  - 全世代が相互に支え合う仕組み
  - すべての人々が働き続けられる社会
  - 低所得者・不安定雇用労働者への対応
  - 地域づくりとしての医療・介護・福祉・子育て
  - 国と地方との協働
- 第2部 社会保障4分野の改革  
（少子化対策・介護分野のみを抜粋）
- 子ども・子育て支援新制度等に基づいた施策の着実な実施（地域の子育て支援の推進、待機児童・放課後児童対策、ワークライフバランス）
  - 次世代育成支援を核とした新たな全世代での支え合い（財源と人材の確保）
  - 社会福祉法人制度の見直し（経営の合理化・大規模化、低所得者支援）
  - 医療と介護の連携と地域包括ケアシステムというネットワークの構築（要支援者に対する介護予防給付や地域支援事業の見直し）
  - 介護保険の利用者負担の見直し（一定以上の所得のある利用者の負担を引き上げ）
  - 施設入所の場合の居住費等に係る補足給付の見直し（資産や遺族年金等も動員）

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

「保育士・保育所支援センター」を開設！  
公益社団法人  
兵庫県保育協会

本会では、待機児童解消に向けた保育所の開設や多様化する保育ニーズに対応するため、保育士人材確保を目的として、県から委託を受けて「保育士・保育所支援センター」を平成25年4月1日に開設しました。当センターでは、資格を持ちながら保育の現場を離れておられる「潜在保育士」の就職支援、保育の職場への就労を希望される新卒者および一般求職者等の就職支援を行うこととしています。

なお、この事業の実施のため、厚生労働大臣に職業安定法第30条第1項に基づく職業紹介事業に係る許可申請を行っておりましたが、このたび、許可が得られましたので、8月1日から紹介事業を開始しました。事業概要は次のとおりです。ぜひ、ご利用ください。

兵庫県保育士・保育所支援センター

センターの概要

所在地 兵庫県福祉センター6階  
☎078-242-4637 FAX078-242-4737  
E-mail hokyo-center@apricot.ocn.ne.jp



事業概要

- ①保育士等人材バンク 潜在保育士の就職支援  
保育士養成施設の新規卒業者の就職支援  
保育の職場への就労を希望される一般求職者の就職支援
- ②出張相談等 出張登録・相談会の実施
- ③就職フェア 「民間保育所就職フェア（兵庫の保育フェスティバル）」の開催

人材バンクの利用方法等

保育協会HP (<http://www.hyogo-hoikukyokai.or.jp/>) をご覧いただくか、センターへお問い合わせ下さい。

連絡先 公益社団法人 兵庫県保育協会  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター  
☎078-242-4623 FAX078-242-1399

アピールしたい活動の  
情報をお寄せください。

問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp



# INFORMATION・伝言板

## 助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

### 大和証券福祉財団

#### 第20回「ボランティア活動助成」

ボランティア活動を目的とした団体・グループに助成します。

**対象** 在宅高齢者、障害児・者、児童問題等に対するボランティア活動団体・グループ

**助成金額** 1団体あたり上限30万円(総額3,300万円)

**締切り** 平成25年9月15日(日)消印有効

①② 公益財団法人 大和証券福祉財団  
TEL03-5555-4640

URL <http://www.daiwa-grp.jp/dsf/>

### 社会福祉事業研究開発基金

#### 平成26年度助成事業

**【一般助成】**先駆的・開発的活動研究に従事する個人および団体を対象に助成します。

**助成金額** 1件上限50万円(総額500万円)

**【特別助成】**国内の社会福祉法人、NPO法人、ボランティア団体等、公益活動を継続的に行っている団体を対象とし、精神障害者、児童虐待防止、ホームレス問題、更生保護の活動、認知症に関する支援事業に助成します。

**助成金額** 1件上限100万円(総額1,500万円)

**締切り** 平成25年10月1日(火)必着

①② 社会福祉法人社会福祉事業研究開発基金  
TEL03-6256-3581

URL <http://www.shakyo.or.jp/sponsor/120723.html>

## 募集

### 子どもたちの“こころを育む活動”募集

学校、家庭、地域、企業などさまざまな立場の団体が、未来を担う子どもたちの“こころを育む活動”に献身、努力している事例を募集します。

**賞** 全国大賞(1件)100万円、優秀賞(数件)30万円 ※表彰式は12月に開催予定

**締切り** 平成25年9月30日(開)17:00

①② 「こころを育む総合フォーラム」全国運動事務局 TEL03-5521-6100

URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

### 読売光と愛の事業団

#### 読売福祉文化賞 2013年

障害者や高齢者の暮らしやすい環境づくり、自立支援、社会参加、共生の推進などに貢献している団体、個人を募集します。中でも新しい発想により、21世紀にふさわしい福祉事業に取り組み、創造的な業績をあげている人

ちを応援します。  
**賞** 一般部門:3件(賞牌と副賞/各100万円)、  
 高齢者福祉部門:3件(賞牌と副賞各100万円)

**締切り** 平成25年9月30日(月)消印有効

①② 社会福祉法人読売光と愛の事業団  
TEL03-6226-7633

URL <http://www.yomiuri-hikari.or.jp/>

### 第4回防災コンテスト

マップやラジオドラマを通じて、地域の防災力を高めるためのコンテストを開催します。

**募集する作品** 【e防災マップ】「eコミマップ」を使って作成・活用した防災マップ

【防災ラジオドラマ】脚本部門…防災ラジオドラマの脚本(原稿用紙)、ドラマ部門…防災ラジオドラマを収録した音源(CD等)

**参加資格** 地域の防災力を高めたいと考えているグループ(個人やプロの脚本家は参加できません)

**賞** 【e防災マップ】最優秀賞1点、優秀賞5点

【防災ラジオドラマ】(両部門合計)

最優秀賞1点、優秀賞10点

**募集期間** 平成25年11月30日(土)当日消印有効(結果発表・表彰式は平成26年2月)

①② 防災コンテスト事務局

TEL029-264-2287

URL <http://bosai-contest.jp/>

## 研修・イベント

### 世界アルツハイマーデー記念講演会

#### (認知症サポーター養成講座)

**日時** 平成25年9月21日(土)13:30~15:30

**会場** 兵庫県私学会館 大ホール

**演題** 「認知症になっても、安心して暮らせる地域とは」(洲本健康福祉事務所長 柳尚夫氏)

**参加費** 無料(定員300人)

①② 公益社団法人認知症の人と家族の会 兵庫県支部 TEL078-741-7707

### 第11回 日本通所ケア研究会

#### 【合同開催】第9回 認知症ケア研修会 in 福山

「これからの新しいケアを創るために、今すべきこと」をテーマに、ケアの質を高めるヒントや現場ケアに役立つ情報を学ぶイベントを開催します。

**日程** 平成25年11月16日(土)、17日(日)

**会場** 広島県福山市

**参加費** 両日1万2,000円、1日もの8,000円

**内容** シンポジウム、現場向け実技分科会ほか

①② 日本通所ケア研究会事務局

TEL084-971-6686

URL <http://www.tsuusho.com/meeting/11/>

### ひょうご地域安全SOSキャッチ電話相談を開設

日常生活の中で異変を察知した際に、匿名でも気軽に通報できる電話相談窓口を、兵庫県と兵庫県警が共同で開設しました。内容に応じて県・市町専門相談機関や警察などに迅速・適切につなぐことにより、事件などの未然防止や早期発見を図ります。

**TEL078-341-1324 (いざつーホー)**

**開設日時** 月~金曜 9:00~16:00(祝日、12/29~1/3を除く)※電話相談のみ

## 行事予定

- 9月5・6日 相談面接技術研修(中級)Aコース  
◆関西学院大学
- 11~12日 兵庫県民生委員・児童委員研修総会◆神戸ポートピアホテル
- 12日 採用力向上研修◆県福祉センター
- 17日 老人福祉施設リーダーゼミナール(全4回)◆県社会福祉研修所
- 18日 第62回兵庫県社会福祉大会  
◆宝塚ホテル
- 19日 会計実務担当者研修(実践編)障害者コース◆県社会福祉研修所
- 20日 社会福祉法人人事・労務管理研修(労務編)◆県立のじぎく会館  
県ホームヘルプ事業者協議会  
サービス提供責任者研修(新任編)  
◆県福祉センター
- 30日 第2回社協ワーカー実践研究会  
◆県福祉センター
- 10月3・4日 全国救護施設研究協議大会  
◆神戸ポートピアホテル
- 16日 チーム・マネジメントリーダー研修Bコース(全4回)◆県社会福祉研修所
- 18日 兵庫県経営協第227回理事会、10月例会◆県農業共済会館
- 24日 福祉の就職説明会 AUTUMN in あかし◆明石市立産業交流センター
- 25日 新任職員OJT担当者研修(実践編)(全2回)◆県社会福祉研修所  
第3回県内社協事務局長会議◆県福祉センター
- 31日 福祉の就職説明会 AUTUMN in ひめじ◆県福祉センター

快適なオリジナルユニフォームで、私は今日もがんばれる。



秋物アイテム多数!  
 AITOX プリスタージャケット  
 メーカー小売希望価格より  
**47%OFF!**

吸汗速乾  
 例えば...  
 ドライポロシャツ + ロゴ印刷  
 (FLORIDAWIND P335) (シルク印刷)  
 1枚当り  
 100枚の場合  
**990円**

カタログ  
 無料進呈中  
 どうぞお電話下さい!

オリジナルウェアプリントの  
**ORIGIN.INFINITY**

無料見積  
 デザイン  
 無料~!

Free 0120-192105  
 オリジンインフィニティ 検索